

【調 査】

1. 目 的

急激な高齢社会に入り介護保険が導入され3年が経過しようとしています。介護保険の利用者も増加の傾向にあります。そこで介護保険の認定には入らない、自立には少し不安な高齢者や独居の高齢者も多く、地域社会においては何とかしたいと思う気持ちが高まり、各地域で地域福祉の充実をめざしてグループサロンが開催されています。その実態を調査し、提言に繋げます。

2. 期 間

平成14年1月～平成15年2月

3. 方 法

市内のふれあいいいきサロン事業所実施自治会、ボランティア団体（社会福祉協議会登録）14ヵ所及び未登録のグループサロン2ヵ所を、現地へ行き調査、及び電話にて聴き取り調査をしました。（資料活動実践記録より）

【調査より導きだされたもの】

◎ 発足のわけ・必要性

- ・一番初めに発足されているグループサロンは、平成8年より始められています。介護保険が導入される以前より、高齢社会の諸問題が地域の中で取り上げられ必要にせまられ発足したと考えられます。

「独居の人が気になった」「ひきこもりがちな高齢者が気になった」「足は痛いし、耳は聞こえにくい、目は見えにくい、近くで昔の仲間と話し合える場所がほしい」の声が「地域の声」となって発足しました。

- ・民生委員、愛育会員の家庭訪問で高齢者の数の多さ、老人家庭の多さ、委員活動の中で必要性を実感し、発足したと考えられます。（日ごろの委員会活動等の成果）
- ・高齢者を対象にした集まりがグループサロンへと変わってきました。（人と人の暖かい絆）
- ・その地域に伝わっている伝承料理を高齢者に食べていただける「場」として発足しました。（地域の食文化に対する絆）

◎利用者の人数及び満足度

- ・人数…10人～30人が大部分を占めます。
- ・対象…70歳以上とひとり暮らしの高齢者。
- ・満足度100%以上の声 声 声や笑顔。
「前夜は眠れないほど楽しみで」「着替えなくてもそのままの格好で参加できる」自治会内の人々の動き「どどこにお孫さんが誕生されたとかがわかってうれしい」との声。
「お昼のおいしい食事を大勢でいただけてうれしい」「料理にも季節感があり、おいしい」と。今田地区では、陶芸教室が開催されており、利用者一人一人の顔が輝いて見えました。内容により満足度アップの様子。

◎活動者（ボランティア）の人数及び満足感

- ・人数…15人以下で活動されています。
- ・活動者も高齢化の傾向となり、体力的に疲れているとの声が聞こえていました。しかし、一部では若い世代の活動者も増えつつあります。
- ・利用者よりの「ありがとう」のことばで、次につないでいく気力が湧いているとの声。
- ・活動している過程、機会が地域住民のコミュニケーションの場となり「地域のまちづくり」の核となっていると考えます。

◎運営及び活動方法

- ・補助金…15万円→14ヵ所(社会福祉協議会登録)
- ・1回の参加費…1人300円のところが多い。
(給食サービスのお弁当代が300円のため同額とした)
- ・活動内容…お昼の食事、季節の行事、歌、体操、話し相手、その他
- ・場所…各自治会の公民館を使用していることが多い。そのため経費は少なくすむ。

一方で、サロン開催のために和式トイレを洋式トイレに改良されたところもある。

地域の協力の重さがひしひしと伝わってきます。



地域によっては、自治会の協力が大きく、住民参画と住民自治の視点から「まちおこし活動」につながっています。

- ・NPOとの事業に結びつけることができればとの意向で勉強中のところもあり、前向きに取り組んでおられる姿勢がうかがえます。

◎問題となっていること

- ・資金面…15万円では継続が困難。
活動内容も回を重ねるうちに、変化をもたせたくやはり経費がかかります。
お昼のお弁当代300円に抑えるため、活動者が家庭より野菜、その他のものを持ち寄って賄っています。(資金面での工夫)
- ・運営面…現在は何とか継続していますが、今後活動者がだんだんと歳をとり減少の傾向です。
交通手段として、バス等があればもっと多くの参加者が期待できます。男性の参加者が比較的少ない。
専門職の人の確保(看護師、管理栄養士等)が困難であります。

◎今後の課題

- ・活動が継続すること。
- ・資金不足に対する対策。
- ・活動者(ボランティア)の人材確保をすること。
人材登録をして、人材不足時の応援態勢がとれれば、また登録しあって交替があれば心強い。自治会や地域などの枠を超えた活動。



グループサロン連絡会の組織化

- ・参加者の交通手段の確保。

- ・活動者（ボランティア）の人材育成。
研修会の機会があれば参加し、レベルアップを図る。
サロン間の研修会、意見交換会の開催。
- ・民生委員との連携を図る。

◎聴き取り調査を終えて

約1年間かけて市内各地で実施されているグループサロンを見聞させていただいて、調査より導き出された内容のほかに、グループサロンの中に流れる暖かい善意の風を感じました。一方で活動者のご苦勞も身近で感じました。

今回の調査では、私たち女性の立場での実地見聞が、そのサロンの雰囲気ですんなりと入っていったのではないかと思いました。

すべてのグループサロンで「生きがい」に共通している事柄があることに気づきました。

それは、

- ①みんなで集う……気軽にこれる。しゃべれる。
- ②楽しむ……おどり、カラオケ、ゲームほか。
- ③みんなで創る……粘土細工、手芸、お飾り、小物作り。
- ④会食……みんなで一緒のものを食べる、おいしい、うれしい、次回に期待。
- ⑤気分転換……お花見、遠足、雪見、お月見等、季節に合わせた行事。

グループサロンの輪が、大きく大きく広がっていくことを期待いたします。

【提 言】

(1) 小地域福祉活動の充実

小地域福祉活動とは、身近な生活の場で安心して生きがいのある地域づくりをめざして、専門機関と協力しあいながら進める住民自身による自主的な活動をいいます。

市内各地で活動されているグループサロンも小地域福祉活動の一端を担っています。

① グループサロン活動連絡会の組織化

定期的に各地で活動されているグループサロンは、活動者の人材確保が困難であり、人材育成に苦慮していることが問題として、指摘されています。

グループサロン間の横の連携をとることで、お互いのサロンの運営方法や問題点の解決方法をディスカッションする場となり、より円滑な運営ができるのではないかと考えます。そして、ディスカッションの場を重ねる過程において、学習の場となり人材育成にも繋がることでしょう。

グループサロン活動連絡会の組織化を望みます。

② 補助金の充足

グループサロンを開催するにあたって、資金は必要不可欠な条件です。

お昼の食事を提供しているサロンは、全体の半数を占めています。食事の材料の野菜を持ち寄って活動しているのが現状です。

また、行事を実施するために毎回工夫をしています。材料費等として必要な経費が要ります。現在の補助金では困難な状況です。

グループサロン開催の継続、充実のため補助金の充足を望みます。

次年度より補助金の減額をされると聞いていますが、小地域福祉活動の充実のためにも減額のないことをお願いします。

③ 小地域福祉活動のハンドブックの作成

小地域福祉活動の運営を円滑に実践する上での指針となるような、ハンドブックの作成を希望します。

(2) 小学校区ごとの安心拠点づくりの推進

高齢者、障害者をはじめ、だれもが住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができ、健康福祉のまちづくりを実現するために次のことを提言します。

① 小学校区ごとの設置

各校区ごとに空き教室等を利用して、だれもが集まりやすい安心拠点づくりを推進する。安心して生きがいのある地域づくりをめざして、住民が力を合わせ、専門機関と協力しあいながら取り組んでいく。

② 三世代のふれあい

幅広い年代の人々がいきいき交流する、経験豊かな高齢者から生活や子育ての知恵が伝えられるようになるためにも元気で生きがいづくりに励む。

学校と地域との連携を図り「トライやるウィーク」「総合学習」等いっしょに取り組む。

「憩いの場」には、常に子どもたちを含めた地域住民とのふれあいの場となるようにしていく。

③ コミュニティ安心拠点とケアシステム安心拠点との連携

「ふれあいいきいきサロン」(グループサロン)と保健・医療・福祉が連携したケアシステム(可能な範囲で)が重層的にサービスを提供することにより、今まで以上により快適で安心して暮らせる「まち」となる。

この点は、ぜひ専門的見地から行政の指導で検討していただきたい。

(3) 介護保険制度の充実

① 正確な認定と公平性

介護保険制度発足時、痴呆の認定は判定ソフトの欠陥が指摘され、その後、改善はされているが、痴呆、ADL(日常生活動作)、身体的・精神的状態等、正しく把握されずに認定されていることがあります。

それをさけるためには、家族や介護者が介護認定を正確に判断されるための情報を調査員に正しく情報提供できるような指導が必要と考えます。

調査員にも情報提供の裏に隠された情報も見抜く能力が必要と考えます。

正確な認定と公平性を実施するためにも、双方の指導を希望します。

② 介護サービスの質の向上を

介護保険制度実施後3年が経過し、介護サービスの質の向上が求められています。

介護サービスは、あくまでも高齢者のQOL(生活の質)の維持・向上をめざす観点からサービス提供者が利用者の立場にたったものでなければなりません。

そのためには、サービス提供者や介護者の専門的な知識・技術・態度が必要となり介護者の現場での継続的な機会教育の徹底をお願いします。

③ 短期入所(ショートステイ)の充実

ショートステイの介護サービスは、介護者が急に介護できなくなったとき、冠婚葬祭時、介護者の疲れを癒すため等に利用するサービスのひとつです。

しかし、利用者が介護サービスの提供を希望した日に、サービス提供施設が空いていないのが現状です。(特に急に利用したいときに多い)

必要なときに必要な介護サービスが受けられることを希望します。

◎ おわりに

市内の各地域で実施されている「ふれあいいきいきサロン」(グループサロン)を見学させていただく機会を得ました。

住民の身近な生活圏で、地域の集会所や公民館などを利用してふれあい交流や、生きがいつくりに取り組んでおられる様子を見せていただき、核となって活動されているボランティアの方々や利用者のいきいきしたお顔に接し、助け合いや支えあうコミュニティづくりが推進されていることを肌で感じとり、再認識させていただきました。

小地域での福祉活動が、住民参画の地域づくり・まちづくりを大きく担っていることも今回の福祉部会の活動を通してまなびました。

今後は、だれもが安心してどこでも助け合うことができ、可能な限り健康で自立した生活を送ることができる、篠山市であることを望みます。

福祉部会活動

年	月	日	活 動 内 容
H13	11	10	今後の活動計画について
	12	1	活動内容を検討（方法、期間等）
H14	1	26	いきいきサロン訪問(大山宮)
	5	17	今後の活動について
	5	21	福祉ボランティアのサロン訪問等について
	6	27	いきいきサロン訪問
	7	1	" (当野)
	10	3	" (南矢代)
	12	5	" (今田町本荘)
	12	9	いきいきサロン聴き取り調査（東岡屋、西町）
H15	1	15	最終提言について
	1	21	"
	1	28	"
	2	4	いきいきサロン訪問(栗柄)
	2	6	最終提言について
	2	10	"

❖ 第2期篠山市女性委員会委員名簿 ❖

*任期 平成13年6月～平成15年3月

委員長	長澤	美紗子
副委員長	竹山	小百合
	熊谷	和子
	酒井	恵美子
	酒井	加世子
	数元	真由美
	園田	美子
	谷掛	まゆみ
	谷口	睦美
	寺本	秀代
	畑	鈴枝
	畑	美智子
	藤田	次子
	宮路	かほる
	山崎	登久子

第2期篠山市女性委員会活動			
年	月	日	活 動 内 容
H13	6	20	委嘱状交付、委員長・副委員長選出
	7	17	平成13年度活動計画について
	8	30	講義「男女共生とは何？」
	9	18	研修推進の柱立てについて
	9	28～29	「日本女性会議2001みと」参加
	10	16	市長、教育長との懇談会
	11	20	男女共同参画センター設置について・さぎそうホール見学
	12	7	研修「ジェンダー出前講座」（県立女性センター主催）
	12	14	男女共同参画セミナーについて、チルドレンズミュージアム見学
H14	1	15	講義「男女共同参画センター設置に向けて」 男女共同参画セミナー打ち合わせ、情報紙について
	1	29	男女共同参画セミナー打ち合わせ、情報紙について 中間報告書作成について
	2	12	〃
	2	23	男女共同参画セミナー講演会
	2	26	中間報告書作成について
	3	7	男女共同参画プランの検討
	3	12	中間報告書作成について
	3	20	情報紙「きらり」発行
	4	2	中間報告書を市長へ提出
	4	16	平成14年度活動計画について
	5	14	市内施設等見学（市営斎場ほか）
	5	21	「市政について」講話を聞く
	6	18	センターを考える会について 連合兵庫との交流会について
	6	29	連合兵庫女性委員会との交流会
	7	16	太子町男女共生セミナー生との交流会について 部会報告ほか
	7	22	太子町男女共生セミナー生との交流会
	8	20	女性センターの先進地視察について センターを考える会について
	9	17	報告会の持ち方について、部会報告
	10	4～5	「日本女性会議2002あおもり」参加
	10	15	男女共同参画説明会について
11	19	報告会について、情報紙について、部会報告	
12	10	最終提言について、情報紙の編集委員について	
H15	1	21	最終提言について、報告会について
	2	18	最終提言について、報告会について、情報紙について
※ その他 各部会随時開催			